

★企画P02台本『LADY CL/ROWN 1話プロローグ』
原案：Ariesta
協力：Aria
台本：Ariesta

★場面人物
ヴィルロア／ヘルガ
ルクレツィア／ティエール
その他ガヤ

●＜回想＞社交会場

ルクレツィア（12）「——ねえ、ねえ。ねえ！ その金髪くせ毛の！！」※焦れて

ヴィルロア（12）「……ん？ わらわのことか」※きょとんと

ルクレツィア（12）「そうでしてよ。あなたヴィルロア？」

ヴィルロア（12）「そうであるが、おぬしは？」

ルクレツィア（12）「あたくしはルクレツィア。あなたと同じで今年から参入でしてね」
※にこっと

ヴィルロア（12）「おお！ 聞き及んでおるぞ！ そなたがあのだ！」※沸き立つように

ルクレツィア（12）「ふふん」※得意げ

ヴィルロア（12）「上から下まで全身まっくら！ ゴキブリ女！！」※無邪気で楽しそうに

ルクレツィア（12）「ん` な` っ！！？」

●社交競技場

【ガヤ】女王崩御と王女即位

- *「あれから1年になりますね」
- *「ええ、喪に服されてると聞きますが」
- *「即位の準備は進められているとか」
- *「成人もまもなくですよ」
- *「同時にされるのかしら」
- *「どうでしょう」

【ガヤ】この場所（弓術場）の説明

- *「無駄話しない！ ねらってねらって」
- *「いわれなくたって——やっ」
- *「あー、おいしい」
- *「どこがおいしいの、全然あたってないし！」

ストと矢が刺さる

ヴィルロア「ふう」

ヘルガ「ヴィルロアお嬢様」※すっと現れる感じで

ヴィルロア「婆やか」※寝ぼけ反応

ヘルガ「はい、ヘルガでございます。お楽しみのところ申し訳ございません」※申し訳な
さげ、丁寧に

ヴィルロア「問題ない、ちょうど仕舞いにするところだ」

ヘルガ「そうございましたか」

ヴィルロア「この香り……おやつか！」

ヘルガ「はい。今召し上がられますか？」※優しく微笑んで

ヴィルロア「そうよの。頼む」

ヘルガ「かしこまりました。少々お待ちくださいませ」

ヴィルロア「慌てなくてよいぞ」

ヘルガ軽食支度

ヴィルロア「乗馬、フェンシング、スキーにテニスときて今はアーチェリー。激しく変動
する社交競技。仕掛け人は貴族と聞くが何の得があるやら」※呆れる感じ

【ガヤ】流行変遷

*「私の勝ちい〜♪」

*「うう次の流行ではみてなさいよー！」

*「ふふふふふ♪」

ヘルガ「お嬢様」

ヴィルロア「ん。今日は何であろう」

ヘルガ「マドレーヌでございます。お口にあうとよいのですが」

ヴィルロア「何をいう。口に合わなんだものなど記憶にない」

ヘルガ「ふふ、ありがとうございます。どうぞお召し上がりくださいませ」

ヴィルロア「ではいただく。もぐもぐもぐ。うむ。いつもながら素晴らしい」

ヘルガ「ありがとうございます。今日は如何でした？」

ヴィルロア「いつもどおりぞ。ただこの目まぐるしい変化が慣れぬ。昔からこういうもの
なのか？」

ヘルガ「いえ。お嬢様が参戦される少し前くらいからでしょうか」

ヴィルロア「ふむ……調べられるか？」

ヘルガ「ご用命とあれば」

ヴィルロア「うむ。よろしく頼む」

【ガヤ】ルクレツィア登場

*「きやあ」

*「きやー」

*「ああ……！」（華やぐ感じ）
ルクレツィア「ごきげんよう」
*「おねえさま！」
ルクレツィア「ごきげんよう」
*「今日はもう帰られたと」
ルクレツィア「ヴィルロアがまだいると聞きましてね」
*「ああ、なるほど」

ヴィルロア「あー……」

近づくルク

ルクレツィア「ふふん。元気そうじゃない」※上から目線で堂々と

ヴィルロア「なんじゃ万年敗北女王」※さらっと自然に

ルクレツィア「ちょっ！ いきなりな挨拶でしてね！」※調子を崩された感じで

ヘルガ「お久しぶりですルクレツィア様」

ルクレツィア「ヘルガさんもお久しぶりです」※目上相手の丁寧感

ヘルガ「ルクレツィア様もおひとついかがですか」

ルクレツィア「ありがとう、いただきましてよ」※普通に

ヴィルロア「わらわに用はないぞ」

ルクレツィア「そうやって余裕でいられるのも今のうちでしてよ。もぐもぐ、あらおいし」

ヘルガ「ありがとうございます」※丁寧に

ヴィルロア「……どうということぞ」※気に留まった

ルクレツィア「ふふ。まだ知らないようですわね。ふふふ、んふふふふ、ほっほっほっほ！！ ごほ、ごほっ、げほげほげほ」※勢い余ってむせる

ヘルガ「ルクレツィア様お水を」

ルクレツィア「（ごくごく）、ふは。ありがとうヘルガさん」※息を整えながら

ヘルガ「とんでもございません」

ルクレツィア「こほん。まあそういうわけで」※落ち着いた

ヴィルロア「どういうわけだか」

ルクレツィア「のんびり流行遅れのことしてるとよろしくてね！ ほほほほほ、お——ほっほっほ」

ルク去る

ヴィルロア「あやつは何しに来たのか」

ヘルガ「お嬢様への激励ではないでしょうか」

ヴィルロア「ふん。そんな殊勝なことするものか。しかし……」

ヘルガ「そちらもお調べしましょうか？」

ヴィルロア「いや、わらわがしよう」※「ふっ」と笑う感じ

●フィッシャー屋敷／食卓

※ヴィルロアは両親の前ではご令嬢モード（控えめ・しおらしく）

ヴィルロア（嬢）「あの……」※消えそう、儂く

ヒンメル「ん？」

ミア「どうしたの？ ヴィロちゃん」

ヴィルロア（嬢）「ええと、その……。お父さま、お母さま。次の競技が決まりまして…」

ミア「あら」

ヴィルロア（嬢）「ルクレツィアお姉さまは初日から参加すると……」

ヒンメル「ふむ」

ヴィルロア（嬢）「わたしも……」

ヒンメル「シュワルツブルクの娘は元気がありあまっているのでともかく。ヴィルロアは」

ミア「いいじゃありませんか」

ヒンメル「む」

ヴィルロア（嬢）「お母さま！」※少し元気、ぱあっと

ミア「ですが危険なことをしてはいけませんよ」

ヴィルロア（嬢）「はい！ はい！ もちろんです！」

ヒンメル「ミア、お前」※ヴィルロアを心配するように

ミア「あなたも、ね」※にこっと

ヒンメル「うう……わかった」※寂しそう、諦めた感じで

ヴィルロア（嬢）「ありがとうございます、お父さま！ お母さま！」

●フィッシャー屋敷／私室

機械音、無線から雑音
以下ヴィルロアが盗聴するルクとティエの会話

ティエール『着きました。どうしたらいいですか？』

ルクレツィア『早かったわね。どんな感じ？』

ティエール『改装完了。フライング選び放題ですね』

ルクレツィア『もしかしてあたくしたちが一番？』

ティエール『ぼいですねー』

ルクレツィア『ふふ、ヴィルロアも掴んでませんでしたからね。今度こそ勝ちましてよ！』

ティエール『オレの見立てでいいですか？』

ルクレツィア『あ。ええ、一番いいのをよろしくね』

ティエール『承知しました！　ところで、そちらは大丈夫ですか？』

ルクレツィア『ええ何も問題ありませんわ。ウォルターも帰ってきたのは遅かったけど、もう寝てしまいましたし』

ティエール『じゃなくて、雑音がひどくて』

ルクレツィア『え？　雑音？』

ティエール『んー……。ちょっと窓の外、みてもらえます？』

ルクレツィア『外？　えーっとじゃあ受話器おくわね、ちょっと待って』

ティエール『はい』

歩くルク

ルクレツィア『ここ2階だし、もう夜よ？　装置の修理なんてあたくしはできませんし』

窓を開けるルク

ルクレツィア『明日専門の人呼ばないと——ってあゝ！！』

ルクレツィア『ヴィルロアのところの鷹……！！　ヴィルロア~~~~！！！！』※夜空に目いっぱい叫ぶ

無線OFF

ヴィルロア「気付いたか。まあ知りたいことは知れた」

ヴィルロア『戻れフルクロア。ご苦労よ』

フルクロア『ピ』

ヴィルロア「確かに今回はルクレツィアに有利そうよの。『便利屋』、か」

ヴィルロア「ふう」※深く息を吐く

呼び鈴

ヘルガ「お呼びですか、お嬢様」

ヴィルロア「うむヘルガ。作戦会議ぞ！」

ヘルガ「かしこまりました」

ヴィルロア『便利屋は流行競技、なのか？ 何か違う気が……。まあどんなものであろうとわらわはわらわの最善をつくすのみ。此度（こたび）もルクレツィアに遅れを取って成るものか！』※モノローグ感で

以上

HP／奇蹟の音箱 : <https://archaries.web.fc2.com/>